

作成番号:0297

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2025-297

内容:カフェイン摂取とアルツハイマー病進行の関係

出典:Association Between Caffeine Intake and Alzheimer's Disease Progression: A Systematic Review.

Cureus. 2025 Mar;17(3);e80923. pii: e80923.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40255824/>

認知症全体の60%以上を占めるアルツハイマー型認知症の発症には、高血圧、脂質異常症、肥満、糖尿病など生活習慣の問題が危険因子であることが指摘されている。カフェイン摂取は潜在的な予防因子として期待されているものの、完全に解明されていない。パキスタン・Rehman Medical Institute の Zarbakhtha Ashfaq 氏は、カフェイン摂取とアルツハイマー病進行との関連性について評価し、Cureus 誌 2025 年 3 月 20 日号に報告した。

2024 年 10 月までに公表された研究を包括的に検索、ヒトを対象にカフェイン摂取とアルツハイマー病進行との関係を検証した。品質評価では、観察研究にはニューカッスル・オタワ尺度、その他の研究には適切なツールを用いた。カフェイン摂取量が多い(1 日当たり 200mg 超)場合と認知機能低下およびアルツハイマー病進行のリスク低下との間に一貫した関連性が示唆された。血漿カフェイン濃度が 1,200ng/ml 超の場合、軽度認知障害から認知症への移行リスクの低下と顕著な関連が認められた。メンデルランダム化試験では、遺伝的に予測される血漿カフェイン高濃度がアルツハイマー病に対する保護作用を有することが示唆された。オッズ比は 0.87(95%信頼区間:0.76~1.00)であったが、統計学的に有意な差は認められなかった。

軽度認知障害患者において、適度なカフェイン摂取がアルツハイマー病への移行に対し保護的に働く可能性があることを示している。この関係は、用量依存적であると考えられ、遺伝的要因や摂取時期の影響も関係している可能性がある。

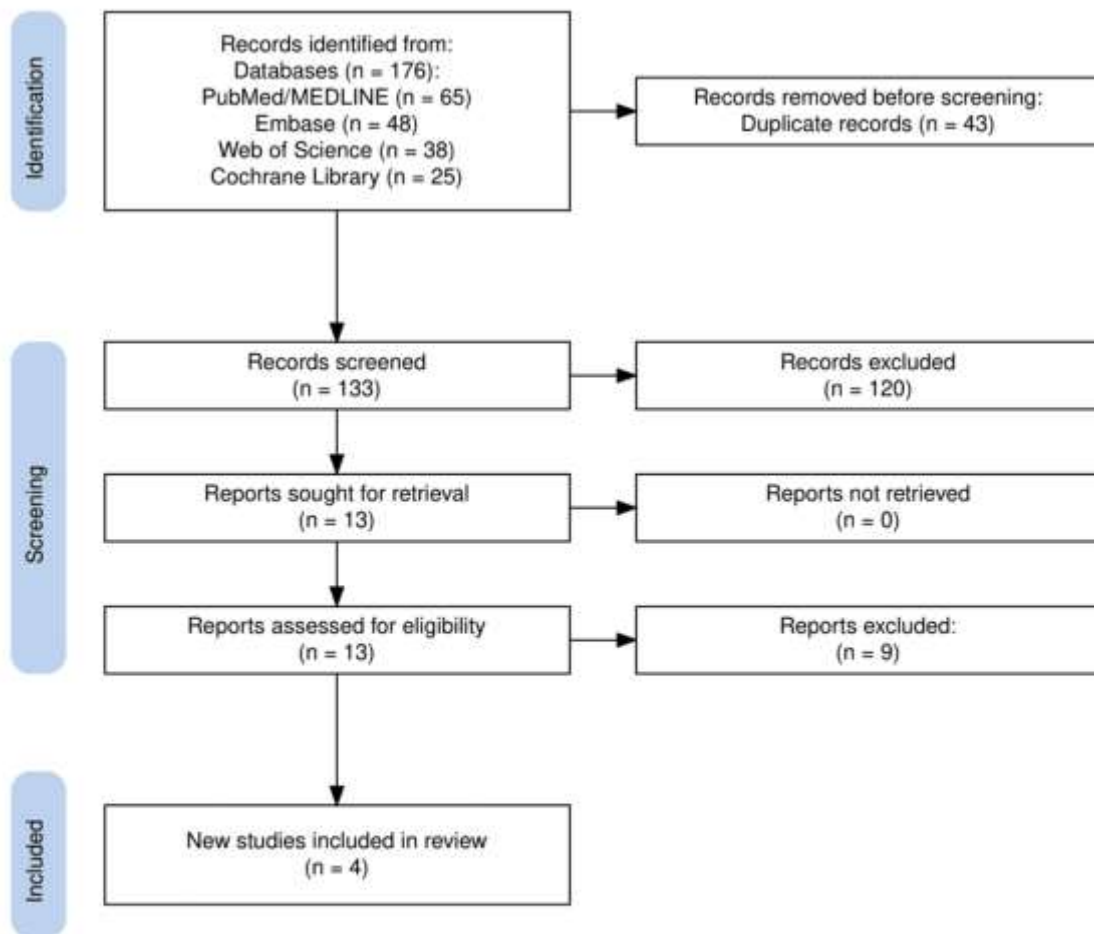


FIGURE 1: The PRISMA flow diagram illustrating the study selection process for the systematic review, including the number of records identified, screened, excluded, and included in the final analysis.

PRISMA: Preferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta-Analyses